

2006年9月21日

## 輸入拡大を通じた貿易黒字抑制の可能性

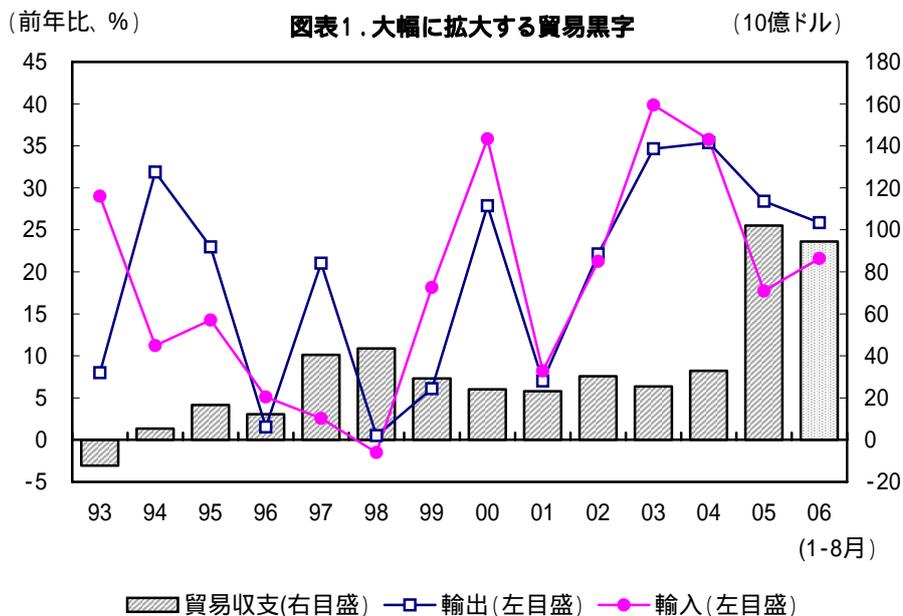
### ～期待される近隣アジア諸国との分業の進展

#### 貿易黒字の拡大が続く

中国の8月の貿易収支は+188億ドルと7月の+146億ドルを40億ドル超も上回る黒字となった。この結果、9月には年初来累計の貿易黒字額が昨年1年間の黒字額（1021億ドル）を上回ることがほぼ確実な情勢である（今年1～8月の貿易黒字累計額は945億ドル、図表1）。

貿易黒字の拡大は人民元改革のスピードアップを求める外圧を一段と高める可能性があるが、それ以上に現在の中国にとっては国内的にも大きな問題である。というのは、貿易黒字の拡大を背景とした外貨準備の増加が国内の流動性を増大させ、景気の過熱傾向を助長する一因となっているからである。

経済成長の維持が政策の重要課題である中国にとっては成長の原動力である輸出を押さえ込むのではなく、輸入の拡大を通じて黒字を抑制できることが望ましいと考えられる。しかし、その可能性はあるのだろうか。以下、最近の輸入動向の分析を通じて考えてみた。



(注)06年の貿易収支は1-8月実績値、輸出入は1-8月期の前年同期比。  
(出所)CEIC

### 05年の輸入鈍化とその要因

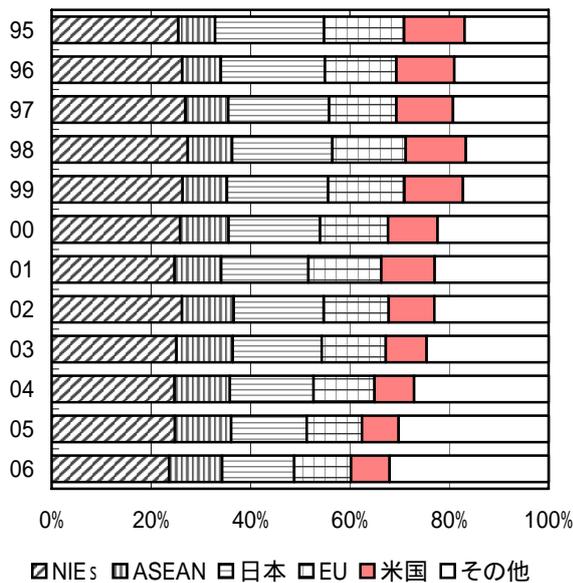
中国の輸出と輸入の伸びは、図表1からもわかるように従来ほぼ平行な動きをしていたが、2005年には輸入の伸びが大きく鈍化し、結果として貿易黒字が前年の3倍強に拡大した。

05年の輸入鈍化の要因としては、政府の投資抑制策により鋼材、製油などの需要が弱まった、対中直接投資が一巡し、設備用機械等の資本財輸入が減少した、国内の産業集積が進展し、部品の国内調達が高まったことから部品の輸入が減少した、在庫調整が行なわれた、といった諸点が指摘されている<sup>1</sup>。

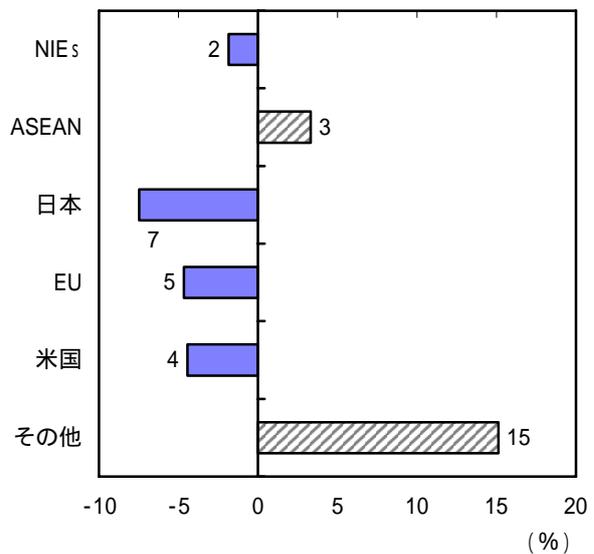
ところで、の在庫調整、あるいはの投資抑制策は当面継続されるものの一時的な要因といえるが、の直接投資一巡やの輸入代替の進展は構造的な要因であり、今後も輸入を抑制する方向で働き、輸出水準が一定でも、結果として貿易黒字の拡大をもたらしてしまう可能性がある。

実際、国別の輸入動向を見ると、先進国のシェア鈍化が見られ、の直投一巡に伴う機械設備輸入の減少などを背景に先進国からの輸入は趨勢的に抑制の方向にあるようである（図表2）。

図表2 - 1. 地域別輸入シェアの推移



図表2 - 2. 地域別の輸入シェア変化幅 (95年と06年の比較)

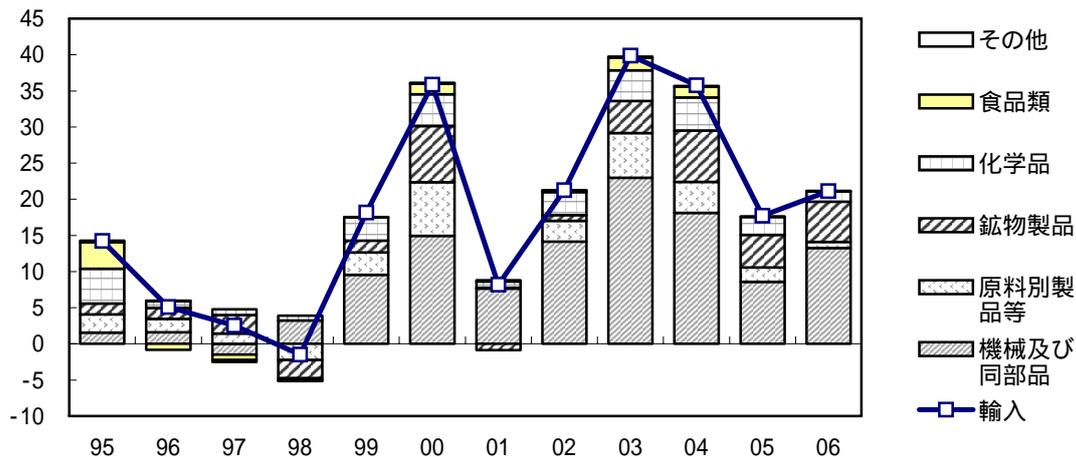


<sup>1</sup> (財)国際金融情報センター編、玉置知己編著「中国が世界市場を席捲する日」時事通信社。

### 高まる機械及び同部品の輸入ウェイト

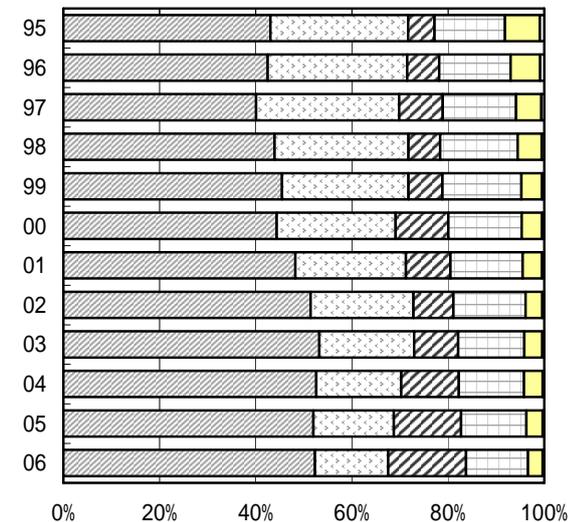
しかし、品目別の輸入動向をみると、中国のエネルギー需要の拡大と原油高を背景に輸入に占める鉱物製品のウェイトが高まっている一方で、依然として機械及び同部品のウェイトが高く、かつ拡大傾向にあることが注目される（図表3、4）。一見、前述の輸入鈍化要因 およびと整合性が取れないように見えるがどこからこういった要因で機械類の輸入が伸びているのだろうか。

（前年比、%） 図表3. 中国の品目別輸入動向～輸入拡大の牽引役は機械類と鉱物製品



（出所）CEIC （注）06年は1-7月期実績。

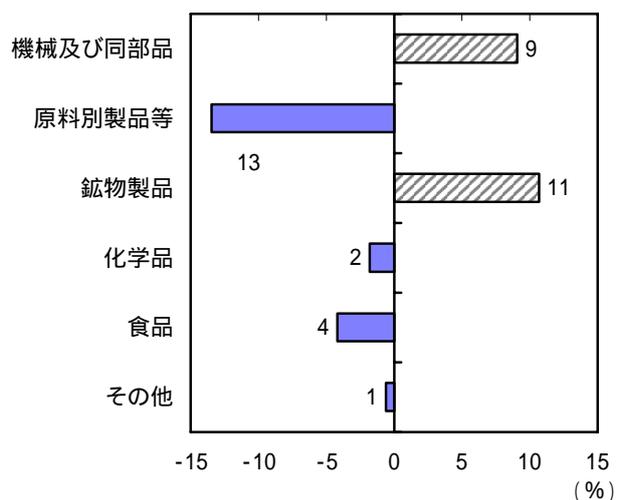
図表4-1. 品目別輸入シェアの推移



■ 機械及び同部品 □ 原料別製品等 ■ 鉱物製品  
□ 化学品 ■ 食品 □ その他

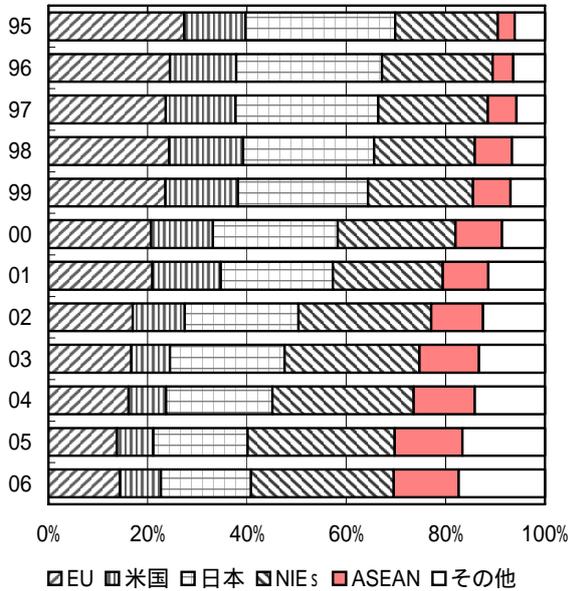
（注）06年は1-7月期実績。  
（出所）CEIC

図表4-2. 品目別の輸入シェア変化幅 (95年と06年の比較)



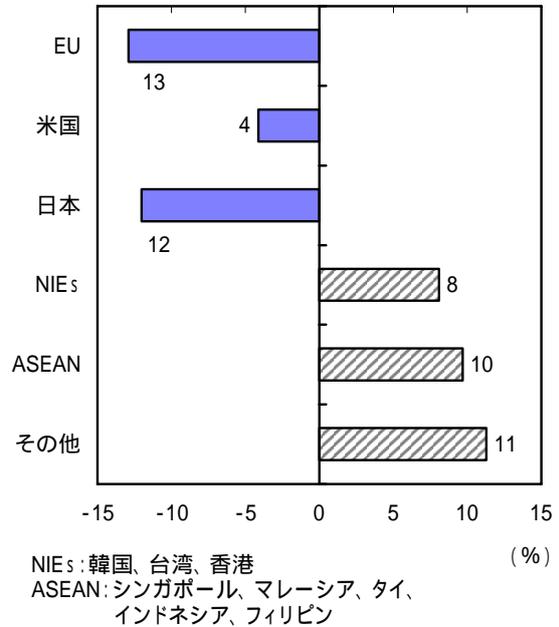
そこで機械及び同部品の輸入について地域別の動向を見てみると、先進国の輸入シェアが低下する一方でNIEs（韓国、台湾、香港）ASEAN（シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン）その他のシェアが拡大していることがわかる(図表5)。

図表5-1. 機械及び同部品の地域別輸入シェアの推移



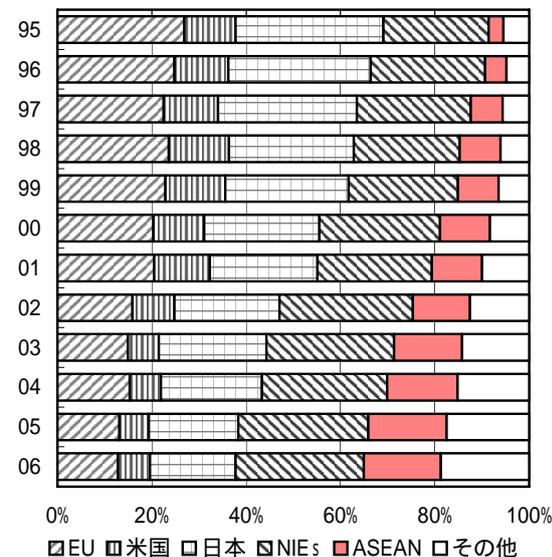
(出所)CEIC (注)06年は1-7月実績。

図表5-2. 機械及び同部品の地域別輸入シェアの変化幅(95年と06年の比較)



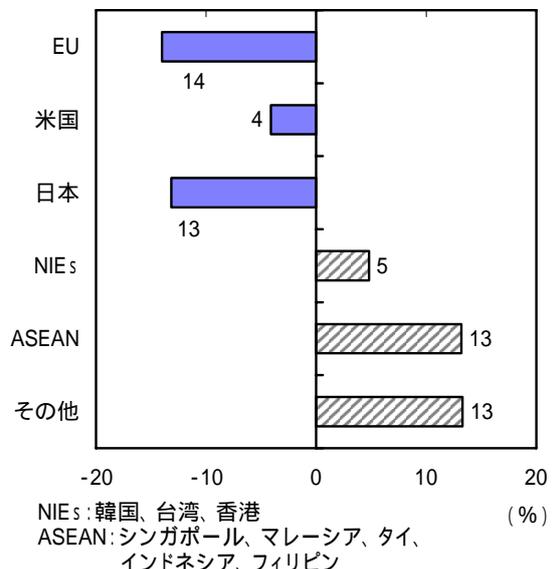
さらに機械類輸入の約8割を占める一般機械・電気機械及び同部品の輸入についても同様に地域別の動向を見てみると、ASEAN 諸国がシェアを着実に拡大させていることがわかる(図表6)。

図表6-1. 機械及び同部品(一般・電気機械)の地域別輸入シェアの推移



(出所)CEIC (注)06年は1-7月実績値。

図表6-2. 機械及び同部品(一般・電気機械)の地域別輸入シェア変化幅(95年と06年の比較)

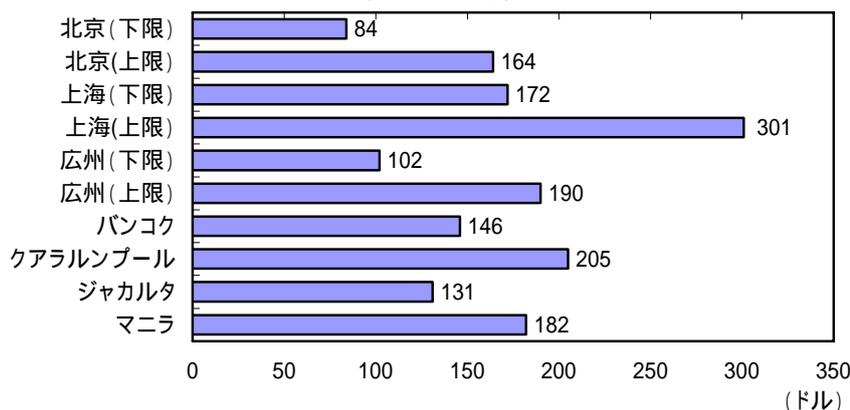


### 期待される近隣アジア諸国との分業拡大に伴う輸入の増加

以上の分析に加えて、中国の貿易の主体が輸出入ともその約 6 割を占める外資系企業であること、また ASEAN 諸国では電気機械のセットメーカーに加えて部品メーカーの集積も進んでいることを勘案すると、中国で生産を行なう外資系企業が中国での最終製品の生産拡大に合わせて ASEAN 諸国から部品を調達し、中国で最終組み立てを行なうという分業体制を拡大していることが機械及び同部品の輸入拡大をもたらしていると言えそうだ。

ASEANからの部材調達が拡大している背景としては、まず、外資のASEANへの進出時期が早く、技術の蓄積が進んでいるため、ASEAN ではハードディスクドライブなどの高度な部品の生産が行なえることがあげられよう<sup>2</sup>。また、セットメーカーの中国進出拡大にもかかわらずASEANでの生産が維持されている理由としては、03年のSARS発生時に直面した中国での生産ストップの経験から中国一極集中はリスクが高いことが強く認識されていること、賃金の上昇などもあり、中国での生産コストが上昇しており(図表7)、かつ今後、人民元改革の進展によってさらに上昇が見込まれる、といった諸点が指摘できよう。

図表7. ASEAN各国に匹敵する中国主要都市の賃金コスト  
(一般工・月額)



(出所)ジェトロセンサー 2006年4月号「アジア主要都市・地域の投資関連コスト比較」

中国の今後の輸入動向を検討する場合、投資と消費のバランスが取れた成長への転換が推進される中で消費財の輸入が拡大する可能性も考えられる。しかし、このシナリオの実現にはまだ時間がかかりそうである。これに対して近隣アジア諸国の経済発展に伴いこれら諸国との分業体制が一段と拡大するというシナリオはより現実的なものと言えないだろうか。AFTA(ASEAN自由貿易地域)による域内協力の深化はASEAN諸国の経済発展を促進し、その生産力・競争力を一段と高めよう。また、ACFTA(中国とASEAN間の自由貿易協定)の進展は中国とASEANとの分業体制推進の支援材料となろう。そして、その結果として輸出の増加とバランスの取れた輸入の拡大がもたらされ、貿易黒字に一定の歯止めがかかることが期待できるのではないだろうか。

調査部 野田麻里子(mariko.noda@murc.jp)

本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

<sup>2</sup> 前掲「中国が世界市場を席捲する日」。